

(議事の要旨)

開始 14時02分

[西田委員長]

ただいまから、平成27年度第9回教育委員会定例会を開会いたします。

議事に入ります前に、本日は傍聴希望者がいらっしゃいますので、傍聴を許可したいと思いますが、異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

[西田委員長]

異議なしと認め、傍聴を許可します。

(傍聴者入室)

[西田委員長]

本日の会議録署名は、高木委員にお願いいたします。

本日の案件は、追加案件も含めまして、議案5件、報告事項1件です。

なお、議案第31号、議案第32号、及び議案第34号の3件は公開しない会議とし、会議の最後に審議したいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

[西田委員長]

異議なしと認め、議案第31号、議案第32号、及び議案第34号の3件は、会議規則第12条の規定により公開しない会議として、会議の最後に審議します。

[西田委員長]

それでは議事に入ります。

議案第30号・日野市立学校職員服務規程の一部を改正する規則の制定について、事務局より提案理由の説明をお願いします。

○議案第30号 日野市立学校職員服務規程の一部を改正する規則の制定について

[鈴木学校課長]

議案第30号・日野市立学校職員服務規程の一部を改正する規則の制定について、提案理由を説明させていただきます。

東京都からパワーハラスメントの防止について、ということで通知がきております。

その通知に基づきまして、普段から職員一人ひとりがそのことを認識し、その防止に全力で取り組むことが必要だと。そのためには適切な対応をするようにお願いするということが、普段から校長会、副校長会を通じていろいろな機会を通じて、そのことをお願いしているところであります。

このたび、日野市の職員服務規程が改正されたことに伴いまして、併せて日野市立学校職員の服務規程を改正したいということで、一部改正をお願いするものでございます。

次のページをお開きください。新旧対照表でご説明をさせていただきます。

第8条の2の見出しを、「(ハラスメントの禁止)」に改めまして、この条文に「2 職員は、職務上の地位、人間関係等の職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、

他の職員に対し、精神的・身体的苦痛を与え、又は職場環境を悪化させる行為をしてはならない。」というものを加えるものでございます。

2ページにお戻りください。

付則でございます。この規則は、公布の日から施行するものでございます。

説明は以上でございます。よろしくご審議のほど、お願いいたします。

[西田委員長]

事務局からの説明が終了しました。ご質問がございましたら、お願いします。

[西田委員長]

なければ、ご意見を伺います。

[西田委員長]

なければ、ご質問、ご意見はこれにて終結いたします。

お諮りします。日野市立学校職員服務規程の一部を改正する規則の制定について、を原案のとおり決することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

[西田委員長]

異議なしと認めます。議案第30号は原案のとおり可決されました。

[西田委員長]

議案第33号・日野市立幼稚園保育料条例施行規則の一部を改正する規則の制定について、事務局より提案理由の説明をお願いします。

○議案第33号 日野市立幼稚園保育料条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

[鈴木学校課長]

議案第33号・日野市立幼稚園保育料条例施行規則の一部を改正する規則の制定について、でございます。

提案理由でございます。この平成27年第4回日野市議会定例会におきまして、日野市立幼稚園保育料条例の一部を改正する条例が議決されたことに伴いまして、日野市立幼稚園保育料条例、養育里親の部分につきまして、規則の一部の改正をお願いするものでございます。

次のページをお開きください。新旧対照表で説明させていただきます。

第4条の見出し中、「多子世帯」を「多子区分」に改めます。

第8条第2号中、「世帯」を「世帯又は養育里親等」に改めます。

第11条第1項第3号中、「世帯」を「世帯等」に改めるものでございます。

2ページにお戻りください。

付則でございます。この規則は、公布の日から施行するものでございます。

よろしくご審議のほど、お願いいたします。

[西田委員長]

事務局からの説明が終了しました。ご質問がございましたら、お願いします。米田教育

長。

[米田教育長]

これは、条例に合わせた文言整理ということによろしいですか。

[鈴木学校課長]

そのとおり、条例に合わせた文言整理でございます。

[西田委員長]

ほかにご質問はございませんか。

[西田委員長]

なければ、ご意見を伺います。

[西田委員長]

なければ、ご質問、ご意見はこれにて終結いたします。

お諮りします。日野市立幼稚園保育料条例施行規則の一部を改正する規則の制定について、を原案のとおり決することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

[西田委員長]

異議なしと認めます。議案第33号は原案のとおり可決されました。

[西田委員長]

報告事項に入ります。

報告事項第20号・平成27年度全国学力・学習状況調査結果分析、について事務局より報告をお願いします。

○報告事項第20号 平成27年度全国学力・学習状況調査結果分析

[記野教育部参事]

報告事項第20号・平成27年度全国学力・学習状況調査結果分析、について報告いたします。

11ページをお開きください。

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果につきまして、11ページから問題文等も含めまして24ページまで、分析結果を載せさせていただきました。主に11ページの全体を通してというところで、ご報告させていただきたいと思います。

まず、小学校の国語についてですが「知識」「活用」問題のAと問題のBに関することですが、平均正答率が全国そして東京都を上回っている状況であります。昨年度は「知識」「活用」とともに東京都の平均正答率を下回っていたところ、今年度は上回ったということで成果が表れたと思います。「話す・聞く」「書く」「読む」「言語に関する知識・理解・技能」の4観点別で見ますと、「書く」と「言語」が都の平均正答率を上回っている状況です。上回った要因としましては、各学校におきまして「書く」「言語」の定着のための指導の工夫をしているところが、この結果に表れたと考えております。

続きまして、小学校算数、A問題、B問題、「知識」「活用」に関する問題についてでございます。算数につきましては、全国の平均正答率は上回っておりますが、東京都と比べ

ますと若干下回っている状況です。特に算数A問題に関する問題は、昨年度と同様の傾向でありました。また具体的に、A問題の分度器の使い方、読み方あるいは図形の特徴、覚えるべき基礎的・基本的な学習内容については、十分に時間を設定していかないといけないということが、これからの課題であると思います。

また「活用」のB問題については、授業で習熟度別の指導を行って、どのように解いていけばよいかということで、交流やあるいは意見を交わしている時間を十分に設定していますが、なぜ、その解き方でよかったのかということを考えさせたり、表現させたりすることを、これから取り組む必要があると思います。

そして理科についてでございますが、理科は観察・実験器具の名称と覚えるべき基礎的・基本的な内容について、正答率が若干低い状況でありました。一人ひとりが観察・実験器具を操作する時間を十分にとる、あるいは日常生活の中で、どのような理科的事象があるかとか、このような結び付きの活動を行っていく必要があると思います。

また、中学校におきましては、すべての教科において全国及び東京都の平均正答率を上回っております。設問によっては正答率に大きな差が見られることから、これから未知の問題に対して、既習の内容を活用して解決する力を一層高めることが大事だと思えます。

そして11ページの右下に意識調査ということで載せさせていただきました。右下のところに「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思えますか」という設問に対して、日野市の小学校6年生は70.4%、中学校では62.7%、昨年度比よりも若干伸びているという形になっております。

この項目について、特に自分の考えを書いて説明する活動というだけでは、その考えがよかったか、あるいは考えに広がりがあったか、さらに判断をする力が身に付いているかなどの確認をしていくことが大事だと思えます。書いたり説明したりする力が身に付いている児童・生徒が、自分の考えを他者の考えと比較して、よりよい考えを求めていくことで、さらに力を高めていくことができると考えます。表現することが苦手な児童・生徒にとっては、ペアやトリオあるいはグループなどで、他者あるいは友達と話し合うことで自分の考えをどうして広げていけばよいか、表現すればよいかなどの授業実践が大切になってくると考えます。

今回、この結果分析に関しましては、日野市の学校全体としての平均正答率という視点から比較させていただいたことが主になりますが、各学校の現状に応じて、さらに各学校ごとに分析をして、今後、教育委員会としても指導助言を重ねる必要があると考えているところでございます。

私からは以上でございます。

[西田委員長]

事務局からの報告が終了しました。平成27年度の全国学力・学習状況調査結果分析で、日野市と東京都、全国との比較の上での詳しい説明がございました。これについて、時間をかけて話し合いをしたいと思えますので、積極的なご発言をお願いいたします。岡本委員。

[岡本委員]

ご説明ありがとうございます。この全国学力テストについては、非常に市民の皆さんも、

社会全体も注目している状況かと思えます。特に昨今、大学改革等の議論の中で、非常に重要な意味合いを持っているという考えの方もおられます。そのようなことで、日野市の学力に対する分析と対策について、いろいろ研究されて、大変ご苦労していると思えます。もちろん専門的な立場からやられているとは思いますが、これは平均値とか、もちろん分散の問題もいろいろあります、統計ですから。そのようなことも考えて、やはり教育のキーワードというのは実践だと思えます。

その意味で各学校は、個別の取り組みというのは当然あると思えます。我々が学校訪問にお邪魔したときも、いろいろなご意見を校長先生から聞くこともありますけれども、例えば理科の対策のところを見ますと、時間配分とか、あるいは時間を増やさなければいけないというニュアンスを持っておられるような対策になっております。その辺り、この対策を各小・中学校の現場に展開していくというか、分析の趣旨、本当にどのようなことなのかということ、よく現場に理解させていく、どのようなことをお考えなのかということ。

それから併せて、当然数年前にも、この全国学力テストの分析・対策をやっていると思えます。経年的な変化、学力を測るべき基準なり、あるいは社会的な変化、もちろん教育環境の変化も踏まえて、ここ数年の学力調査も踏まえた現場の先生に対する指導を、どのようにやっておられるのか、この2点、ご意見とかあれば、お聞かせ願いたいと思えます。

[記野教育部参事]

今、この分析等に関する現場への理解あるいは指導、そして経年の経過について2点、ご質問いただきました。まず、この対策や結果分析等につきましては、校長会やあるいは副校長会、そして教務主任研修会等で示すということと、具体的な日野市の傾向としてということ、話はさせていただきます。そして、それをもって各学校の分析状況で、各学校に学校ごとのデータ分析は行っておりますので、この学校ごとで授業改善推進プラン、もしくは授業創造プランを策定して、具体的な実践に結び付けていくということにしております。なおかつ、私たちの指導業務として、各学校に訪問した折には、この授業改善推進プランを持参しまして、具体的にどの点が改善に載っているのか、あるいは理数であれば理数系統のどの点に重点を置いてやっていくか、授業改善につながっているのかということに指導をしているという状況です。

また、経年経過につきましても、昨年度と比較とか、前回の調査を比較ということも行っております。それは調査している児童・生徒は違いますが、同じ内容等、この時期に行っているということで、必ず前年度と比較してということをしております。その中で日野市全体として、どの点が課題なのかということも洗い出して、逆に各学校でいろいろな実績を積んで成果が上がっている学校等の実践事例をこちらで集約しておきまして、なかなか実践が上がらないというところ、本市が目指しているユニバーサルデザイン化の授業や、あるいはICTの活用授業、このような具体的なツールや、あるいはユニバーサルデザインの授業をすると授業成果が上がるということもあるので、具体的に授業実践をやってもらえませんか、というような指導助言をしていくことで、子供たちの学力向上にもつながっていくと考えております。

[西田委員長]

濱屋委員。

[濱屋委員]

今の説明の中で、今まで取り組んできた主要な成果が生きていると思います。私が読んで感じた課題の一つは、説明の中にもありましたけれども、考えや交流する場面は設けられているけれども、出てきた問いに対して深める時間が少なかったり、交流する場が少ないことだと思います。これについて、より具体的に授業を改善していくためにすべきことは、どのようなことが考えられるでしょうか。

[記野教育部参事]

考えや交流を深める時間の設定が、なかなかとれないという状況で今後の授業実践、あるいは教育活動の実践の中で行っていくということですが、今年立ち上げました学ぶ力プロジェクト等、自ら課題を発見し、そして子供たち自らが解決に向かうという授業実践、また、その中でなかなか時間が設定できないですけれども、教科の横断的な取り組み、その一つの課題に対して、国語あるいは算数、社会、もちろん総合的な学習、このように全体を見た流れで一つの課題を解決するというところでございます。国語は国語の教科だけではなくて、関連性を持たせて指導をしていくことが、時間を生み出すというところでも、十分有効な教育実践ではないかということで、今年さらに、学ぶ力プロジェクトに力を入れて、21世紀を切りひらく力を子供たちに身に付けさせる実践研究を重ねていきます。

[濱屋委員]

この公表されている問題の中に、中学の国語の「活用」のほうの問題で、やはり複数の資料を見ながら自分の考え、自分がもし、そう問われたら、どのように考えるかとか、それを交流するような設問になっています。こういった問題を解くことが、先ほどおっしゃった横断的な、あるいは教科の壁を越えた学びにつながると思いますので、是非そのことを現場の先生方にも周知していただければと思います。

[西田委員長]

米田教育長。

[米田教育長]

関連して、今、濱屋委員からお話があった中学国語B、この資料で21ページですけれども、その問いは「あなたは、二〇二〇年の日本は、どのような社会になっていると予想しますか」、次が大事で「また、その社会にどのように関わっていきたいと思いますか」と、このような質問です。まさに、これから我々日野市としても目指す方向と非常に調和した問題かと思います。知識の習得・活用を超えて、自らが社会とどのように関わっていくのか、その子供たち自身の学習活動の中に、このような視点を取り入れる。将来、自分たちにどのような社会が来て、そこで自分たちはどのようなものをつくるのか、それによってさらに自分たちの知識を深め、そして情報を収集し、友と議論をし、そして力を付けていく、それが我々の目指している学ぶ力だと思いますので、その意味ではこの問題を見ながら、いろいろなことを考えました。

その意味で、先ほど岡本委員もお話しされましたけれども、この調査をもとにいろいろ、たくさん考えるべきことがあると思いますので、これからも頑張りたいと思います。

[西田委員長]

高木委員。

[高木委員]

この分析結果をじっくり見させていただいて、子供たちはもとより学校の先生方、あるいは教育に携わっている皆さんのいろいろな努力の結果が出ていて、全般的に非常によい傾向、状況にあるのかなということを私自身は強く感じています。

全国的に、ともすると市の平均点がどうだったとか、高いとか低いとかと、ついつい関心になり、注目になりがちなのですが、先ほど参事からもありましたように、日野市にとっての平均正答率なので、これからは、高い学校、低い学校、どうだったのかということ、それからもっと大事なのは、個々の子供たちがどこまで理解が進んでいて、どのような課題があるのか、あるいはどの分野が得意で、何が苦手なのかということ、ある目標を持って、きちんとそこを育てていくということが、より重要なかなと考えております。

やはり低かったということについては、きちんとフォローはしなければいけないのですが、高かったといって安心もできない部分もあると思いますので、今、学ぶ力プロジェクト、いろいろな施策も進めていますし、そのことの一つの結果ではないですが、経過ではありながら、よい状況に向かいつつあるのかなということを感じていますので、引き続き関係者のご尽力をお願いしておきたいと思います。

[西田委員長]

岡本委員。

[岡本委員]

委員さんからも、子供たちに焦点を当てるといふことの重要性を指摘されましたけれども、せっかく私たち、かなりの回数の学校訪問をやって、だいぶ馴染んできたというか、実態がわかってきつつあります。その中で是非、分析とか対策をもちろん校長先生を集めて行政としてやる機会はあるのでしょうけれども、そのような機会を捉えて、シャープにピシッと時を移さず、まさに今見たときの講評などは、その中に専門家から見た、もちろん学力テストの分析を踏まえて、それを生に出してどうのこうのということではないですが、やはりしないと、特に私、気になっているのは理科教育の問題ですけれども、学校訪問をしても、もう少し手の細かいとか、結構な良い設備がありますよと、例えば実験器具。そのようなものを活用し、指導に出向いている方が、少しでも学校訪問したときの具体的な、時間差のないように、ご指導をお願いしたいと思います。

[西田委員長]

ほかにございませんか。

私も一言よろしいでしょうか。11ページの表を見ますと、小学校は国語も算数も理科も「勉強は好きですか」の問いに、全国、東京都と比べまして高いですね。小学校のときに、国語の勉強が好き、算数の勉強が好き、理科の勉強が好きということは、とても素晴らしいことだと思うのです。勉強が好きであることは中学校、さらにその上へとつながる学習の最も基本になることで、それは先生方が授業方法や授業内容の研究を進め、よりよい授業をつくってこられたからこそです。高く評価してよいと思います。

その次を見ますと中学校では、国語も数学も理科も平均正答率が全国、東京都に比べて、

正答率が高い状況にあります。それは小学校のときに好きであったからこそ、中学校に行ってから学習意欲が高まって、これだけの正答率が得られたのだらうと思います。

さらに、この表を見ますと、小学校のほうですけれども「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という項目は、全国と東京都と比べると高いですね。それが「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」というところは、50%が難しいと答えています。難しいことを実感して、努力をしているからこそと思います。

[西田委員長]

ほかにございませんか。

[西田委員長]

なければ、報告事項第20号を終了いたします。

[西田委員長]

これより議案第31号、議案第32号、及び議案第34号の審議に入りますが、これらの案件につきましては公開しない会議といたしますので、関係職員以外の事務局説明員は退席しても差し支えないと思います。異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

[西田委員長]

異議なしと認めます。関係職員以外の事務局説明員と、すみませんが傍聴者の方は退席してください。なお、本件の終了をもって、平成27年度第9回教育委員会定例会を閉会といたします。

(関係職員以外退室)

「教育委員会職員の分限休職の専決処分について」

「教育職員の内申の専決処分について」

「日野市立学校教員の処分（内申）について」

は公開しない会議の中で審議。

[西田委員長]

以上をもちまして、本日の案件はすべて終了いたしました。これにて平成27年度第9回教育委員会定例会を閉会いたします。

閉会 14時39分